〈図画工作〉

自ら理想とする「美しさ」を追求する児童の育成

～児童がタブレットを通して学びの足跡を残す活動を中核に～

大垣市立東小学校　教諭　箕浦　希生

概　　要

図画工作科の今日的課題として，表現したい願いを具体的にもつことができない児童がいることがあげられる。また，自分の作品をさらに高めようとしたり，自分の作品の良さを言葉として表現したりすることについても弱さを感じている。そこで，「自ら理想とする『美しさ』を追求する児童の育成」を研究主題として実践を行った。本研究実践は，図画工作科の指導を通して，児童が造形的な見方・考え方を身に付け，造形的な視点で自分や他人の作品の良さについて語る力を高めることにつながった小学校５年生の実践である。この実践では，①１単位時間の役割と付けたい力を「単元構成表」を作成することで明確化し，②児童が強い課題意識をもち続けるために資料や発問などの学習活動を工夫し，③自分の成長を自覚したり新たな課題を見いだしたりするために振り返りの在り方を工夫することで，子どもたちは造形的な見方・考え方を身に付けて，自分の作品の価値を実感したり，自分の作品に夢中になったりすることができるのではないかと考えた。これらの実践を通して，主体的な学習態度を高め，作品や身の回りの「美しさ」を実感できる児童が育ってきた。

１　主題設定の理由

（１）学習指導要領から

平成２９年３月に告示された学習指導要領の図画工作科の目標では，「表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（１）対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに，材料や用具を使い，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする。（２）造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。（３）つくりだす喜びを味わうとともに，感性を育み，楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い，豊かな情操を培う。」とある。

様々な文化や芸術が溢れる今の時代の中で，伝統を継承し，美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心を高めることで，豊かな人間性を育み，よりよく生きようとする児童の情意の調和的な発達が必要であると感じている。

（２）昨年度の実践から

昨年度，１年「でこぼこはっけん！」の題材の実践を行った。その中で，導入時の教師の作例の提示の工夫をすることで，児童が作品の良さを造形的な視点で捉え，学習課題をつくることができるといった成果があった。その一方で，自分の作品を見つめ直し，仲間の作品や憧れの作品などと比較しながら，もっとよくしようとする態度を高めることができなかったという課題が残った。これらを踏まえ，今年度は，１単位時間の終末に自分の作品の振り返りや仲間の作品の鑑賞をする時間を位置付けることを目指した。

（３）児童の実態から

今年度担当した５年の児童に，アンケートを４月に実施すると，「図工の授業では，課題の解決に向けて，「自分で」考え，「自分から」取り組むことができる。」と回答した児童は９６．５％だった。その反面，「図工の授業では，「自分で」課題をつくることができる。」と回答した児童が

８５．７％だった。このことから，課題があれば，その解決方法を見付けることはできるが，導入時に教師の作例を見て課題を考えたり，自分の作品から今日やりたいことを考えたりすることに苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。これは，造形的な見方・考え方が働かないため，作品の構想をすることができない児童がいることや，作品を完成させることが目的になってしまっている児童が多くいることが要因だと考えた。そこで，これまでの既習事項や経験からつないで考えられるような作例及び提示資料の工夫や，造形的な見方・考え方の指導，そして自分の成長を自覚したり新たな課題を見いだしたりするための振り返りの在り方を工夫することが必要であると感じた。

以上のことから，研究主題を「自ら理想とする『美しさ』を追求する児童の育成」と設定した。

2　研究仮説

（１）１単位時間の役割と付けたい力を「単元構成表」を作成することで明確化し，（２）児童が強い課題意識をもち続けるために資料や発問などの学習活動を工夫し，（３）自分の成長を自覚したり新たな課題を見いだしたりするための振り返りの在り方を工夫すれば，自ら理想とする「美しさ」を追求する児童を育てることができる。

3　研究内容

（１）造形的な見方・考え方を意識的に働かせる単元構成の設定
①１単位時間の役割と付けたい力を明確化した「単元構成表」の作成
②児童が強い課題意識をもち続けるための教材の開発・指導の工夫

（２）児童が美しさを追求するための学習活動の工夫
①これまでの既習事項や経験からつないで考えられるような作例や提示資料の工夫
②児童自身が題材を通して学びの深まりを実感できる学習活動の工夫

4　研究実践

（１）造形的な見方・考え方を意識的に働かせる単元構成の設定
～「心に残ったあの時　あの場所」の実践～

①　１単位時間の役割と付けたい力を明確化した「単元構成表」の作成

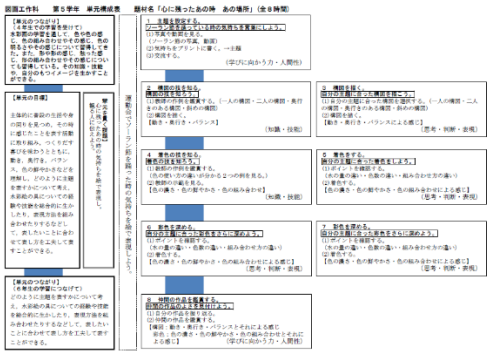
小学校指導要領解説図画工作編から，造形的な「見方・考え方」をまとめると，次のように整理できる。

見方	考え方 （見方を基に感じるイメージ）
形	形の感じ
色	色の感じ
触る	触った感じ
組み合わせ	形や色の組み合わせによる感じ
色の明るさ	色の明るさによる感じ
動き	動きによる感じ
奥行き	奥行きによる感じ
バランス	バランスによる感じ
色の鮮やかさ	色の鮮やかさによる感じ

図表―①　造形的な見方・考え方

５年「心に残ったあの時　あの場所」の題材では，学習指導要領を根拠に，題材を通してどのような見方・考え方を付けたいか，授業ごとのねらいや学習活動を明確化した単元構成表を作成した。題材の学習内容に興味をもち，作品の主題を設定する時間，教師の作例や児童の作品から構図に対しての知識・技能を習得する時間，主題を表すための構図について思考し表現する時間，教師の作例や児童の作品から彩色に対しての知識・技

能を習得する時間，主題を表すための彩色について思考し表現する時間，題材を通して自分が高めてきたことを振り返り，仲間の作品を鑑賞する時間を単元構成表に位置付けた。


図工作科　第５学年　単元構成表　題材名「心に残ったあの時　あの場所」（全８時間）

【単元のつながり】
（本年度までの学習を受けて）
今年度の学習を通して，色や色の感じ，色の組み合わせや色の感じ，色の明るさや色感について習得しました。また，新たに，新色の感じ，色の組み合わせや色の感じについて習得しました。その他，遠近感や，奥行き，バランスなどを通して，その他の技能や，表現のイメージを生かすことができる。

【単元の目標】
主体的に表現の主題や身の回りを見つめ，その時に感じたことを表現動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，動き，奥行き，バランス，色の組み合わせなどを理解し，どのように主題を表すかについて考え，表現の高さについての観察技能や鑑賞の仕方のよさを生かしたり，表現方法を組み合わせたりするなどして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。

学習内容（題材）
「心に残ったあの時　あの場所」の学習を通して，自分の成長を感じ，表現しよう。

【単元のつながり】
（今後の学習につなげて）
どのように題材を表すかについて考え，水彩絵の具についての経験や技能を組合わせたりして，表現方法を組み合わせたりするなどして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。

運動会でソーラン節を踊った時の気持ちを思い出しながら，表現しよう。

1　主題を設定する。
ソーラン節を踊っている時の気持ちを表現にしよう。
(1) 写真で動作を見て，（ソーラン節の写真，動画）
(2) 気持ちをプリントに書く。→主題
(3) 完成する。
（学力に向かう力・人間性）

2　構図の仕方を知る。
構図の仕方を学ぶ。
(1) 教師の作例を観賞する。（一人の構図・二人の構図・奥行きがある構図・斜めの構図）
(2) 構図を描く。
【動き・奥行き・バランス】
（知識・技能）

3　構図を描く。
自分が主題に合った構図を選ぶ。
(1) 自分の主題に合った構図を選択する。（一人の構図・二人の構図・奥行きがある構図・斜めの構図）
(2) 構図を描く。
【動き・奥行き・バランスによる感じ】
（思考・判断・表現）

4　着色の仕方を知る。
着色の仕方を学ぶ。
(1) 教師の作例を観賞する。
（色の使い方の違いが分かる２つの例を見る。）
(2) 教師の作品を見る。
【色の濃さ・色が鮮やかさ・色の組み合わせ】
（知識・技能）

5　着色をする。
着色の仕方にあった着色をしよう。
(1) ポイントを確認する。
（色の濃の違い・色彩の違い・組み合わせ方の違い）
(2) 着色する。
【色の濃さ・色が鮮やかさ・色の組み合わせによる感じ】
（思考・判断・表現）

6　着色を進める。
自分の主題に合った着色をさらに進めよう。
(1) ポイントを確認する。
（色の濃の違い・色彩の違い・組み合わせ方の違い）
(2) 着色する。
【色の濃さ・色が鮮やかさ・色の組み合わせによる感じ】
（思考・判断・表現）

7　着色を進める。
自分の主題に合った着色をさらに進めよう。
(1) ポイントを確認する。
（色の濃の違い・色彩の違い・組み合わせ方の違い）
(2) 着色する。
【色の濃さ・色が鮮やかさ・色の組み合わせによる感じ】
（思考・判断・表現）

8　仲間の作品を鑑賞する。
自分の作品のよさを見付けよう。
(1) 自分の作品を見て話す。
(2) 仲間の作品を鑑賞する。
【構図・動き・奥行き・バランスとそれによる感じ
着色，色の濃さ・色が鮮やかさ・色の組み合わせとそれによる感じ】
（学力に向かう力・人間性）

図表―②　「心に残ったあの時　あの場所」単元構成表

そして，単元構成表で，図工の授業において習得させる知識を理解し，「何を」指導するかを明確にした。「心に残ったあの時　あの場所」の題材を通して働かせたい造形的な見方・考え方をまとめ，１単位時間ごとの役割や習得する知識や造形的な見方・考え方を明確化することで，題材の出口における児童の学習を通して変容した姿を明らかにすることができた。また，単元構成表を作成して指導を行うことで１単位時間のつながりを意識した指導を行ったり，児童が前時までの学習内容を活かして本時の学習に取り組んだりすることができた。題材の最後の時間には，今までの学習で習得した知識・技能をどのように考え，表現したのかをまとめる時間と，仲間の作品を鑑賞して，どのような技能を使っているか，そこからどのような感じがするのかをまとめる時間を位置付けた。

②　児童が強い課題意識をもち続けるための教材開発・指導の工夫

「心に残ったあの時　あの場所」の学習では，児童が学習課題の解決に向けた意欲を高め，強い課題意識をもち続けるために，運動会で披露した東小学校の伝統であるソーラン節を題材とし，運動会翌日の図工で第１時の授業を行なった。第１時では，主題を設定するために，昨日の運動会でソーラン節を踊っている時の自分は，どんな気持ちだったのかを振り返った。「真剣な気持ちだった。」「緊張していた。」「楽しかった。」「必死だった。」などと様々な気持ちが出てきた。そこで，「そのような気持ちを絵で表現するには，どんな構図にすると見る人に伝わるかな。」と発問し，「動き」や「奥行き」の違いが分かる６つの作例を提示した。

写真―①　構図の６つの作例

複数の作例を比較することによって，構図の違いや特長に気付けるようにした。また，それぞれの構図は，教師自身がどんな気持ちを表したくてどんな構図にしたのかを説明し，自分の主題に合った構図を選択できるようにした。さらに，これらの作例をタブレットで児童に共有し，常に近くで見ることができるようにし，参考にしやすい環境を作った。途中で，一人の児童の作品を皆に見せ，「この構図からはどんな気持ちが伝わってくる？」と発問すると，「一人の構図だから真剣な気持ちが伝わってくる。」という意見が出た。構図の特長から，伝えたい気持ちが見る人に伝わった時の嬉しさを共有し，「自分もあの子みたいに気持ちが伝わる作品を作りたい。」という意欲につなげることができた。その時間の終末には自分の作品をタブレットで撮影し，参考にした作品と横に並べて，一目で比較できるようにした。参考作品と比較することによって，憧れの作品に近付けるにはどこをどう変えたら良いのかが分かるようになった。ある児童の振り返りでは，「皆と

踊った楽しい気持ちを表すために，２人の構図にしました。次回は，奥行きをだすために，自分をもう少し大きく描いて，後ろの人を小さく描きたいです。」とあり，今日の成果だけで終わらず，もっとよくするための次回のめあてをもつことができていた。

（２）児童が美しさを追求するための学習活動の工夫

～「心に残ったあの時　あの場所」の実践～

①　これまでの既習事項や経験からつないで考えられるような作例や提示資料の工夫

「心に残ったあの時　あの場所」の第６時「主題に合う表し方を考えて，色の塗り方を工夫しよう」の学習では，導入で，造形的な見方・考え方を働かせながら，教師の２つの作例について発言することができた。この２つの作例は，児童が違いや共通点に気付くことができるような作品になるように工夫した。

作例Ａ：色は，絵の具のチューブから出したままの鮮やかな色を使い，濃く塗った作品。
作例Ｂ：複数の色を混ぜて色を作ったり，水を多く含めてぼかしたりして塗った作品。

写真―②　彩色の２つの作例

第６時の導入の教師の作例提示

Ｔ：この２つの作品の違いは，どんなところかな？
C1：Ａは全体的に色が濃くて，Ｂは手前だけ色が濃い。奥が薄い。
C2：Ａは奥行きがなくて，Ｂは奥行きを感じる。
C3：Ａは色数が少ない。Ｂはたくさんの色を使っている。
C4:肌の色に着目すると，Ａは一色だけ。Ｂは色々な色を使っている。
C5：Ａは法被の色が黒一色だけど，Ｂは緑色も混ざっている。
C6：Ａは明るくてくっきりしている，Ｂはくすんでぼんやりしている。
C7：Ａは楽しい感じがする。Ｂは真剣な感じがする。
C8：Ｂは真剣だから周りなんて覚えてないという感じがする。

このように，造形的な視点で違いを語るだけでなく，それがどんなイメージがあるのか，どんな感じがするのかを，これまでの既習事項や経験とつなげて，ほとんどの児童が発言することができていた。

また，児童の発言を基にポイントを押さえるための資料も提示した。

１．「色の濃さ」の発言と同時に，濃い色と薄い色の水の量の違いが分かる資料を提示。
２．色数についての発言と同時に，一色だと鮮やかになり，多色を混ぜるとくすんだ色になることが分かる「色の鮮やかさ」についての資料を提示。(「くすんだ色」を悪い意味で捉えないようにするために，「自分だけの色」と表現した。)
３．法被の色の発言と同時に，黒色の法被に緑・青・赤を混ぜた場合の「色の組み合わせ」の例を提示。

図表―③　ポイントを押さえるための資料

「では今日はどんな課題にしようか。」と問うと，「色の濃さ，鮮やかさ，組み合わせを工夫して，自分の気持ちに合った表現をしよう。」という課題が生まれた。ポイントとなる表現方法の示範をし，課題解決の方法を掴むことで，「やりたい。」という意欲が生まれた。

活動中の机間指導では，「どうして薄くしたの？」「どうして赤色を入れようと思ったの？」と児童に問いかけながら回った。すると児童は少し考えてから，「周りをぼんやりさせて，踊ることだけを考えていたという真剣な気持ちを表したいから。」と答えたり，黒板の資料を指さして，「あの色の組み合わせみたいに，温かい感じにしたいから。」と答えたりした。言葉にしたり，改めて考えたりすることで，自分自身で思考を確認することができた。また，黒板にある資料を参考にして製作することで，造形的な視点をもとにしながら思考し，表現していることが分かった。

③　児童自身が題材を通して学びの深まりを実感できる学習活動の工夫

児童自身が題材や１単位時間での学びの深まりを実感できるようにするために，「心に残ったあの時　あの場所」，の題材では，タブレットを用いて，毎時間の作品の途中経過を写真に収める活動を行った。そして，振り返りシートを「ミライシード」の「オクリンク」ソフトで作成し，１単位時間ごとに学習の振り返りを記入できるようにした。

振り返りシートは，前時の作品の写真と本時の作品の写真を横に並べて貼り付けができるようにすることで，一目で前時と本時の作品の比較ができるようにした。そして，学習の振り返りを書く際に，振り返りを書く視点を提示し，前回と比べてどこがどのように良くなったかと，次回はどこをどんなふうにしたいのかを，児童一人一人が振り返りを毎時間記入した。

１．前回と比べて　よくなったところ
　「〇〇を～なふうに塗ったら，△△な感じが表現できた。」
２．次回のめあて　もっとよくしたいところ
　「△△な感じにするために，〇〇を～なふうに塗りたいです。」

図表―④　振り返りの視点

児童が，タブレットに毎時間の学びの足跡を残すことや，振り返りシートで１時間ごとの学習を振り返ることを通して，授業ごとに題材を通しての学びの深まりを把握することや授業後に題材の学習の積み上げを実感することを目指した。

第６時の振り返り
児童Ａ：前回と比べて，法被の黒に赤や黄，青や緑を混ぜて塗ったら，楽しかったり，真剣だったり，いろいろな気持ちを表現することができたのでよかったです。次回は，いろいろな色を使って影を全体に入れられるようにしたいです。
児童Ｂ：前回と比べて，肌を黄色で塗ったら，光と影を表現することができました。また，体操服を空と同じような色で緑を入れると爽やかな気持ちや楽しかった気持ちを一緒に表現することができました。次回はもっと立体的に見せるために，体操ズボンを濃い色で点々塗りをしたり，法被は真っ黒にならないように，色を変えながら光を表現したりして，楽しい気持ちをもっと表現できるようにしたいです。
第７時の振り返り
児童Ａ：前回と比べて，影の部分を茶色と赤色で塗ってみたら，全体的に赤い感じになって，必死で踊っている気持ちを表現することができました。次回は迫力を出すために，背景を大きい筆で濃く塗りたいです。
児童Ｂ：人物の影をピンク色で塗ったら肌の色と似ていたので全体のバランスが良くなりました。前回と比べて，明るくなったので楽しく踊っている感じを表現することができました。次回は木の影の色のバランスを考えて塗りたいです。

図表―⑤　「心に残ったあの時　あの場所」振り返り

このように，振り返りシートを活用することで，児童が題材を通して学びの深まりを実感しながら，学習を進めることができた。「前回と比べて」の視点を使って振り返りを書くことは，自分の学びのよさや成長に気付くことにつながり，「次回のめあて」は新たな課題を見いだすことにつながった。

そして，タブレットを用いて前時の作品と本時の作品を横に並べて比較することによって，本時の活動で自分の作品がどのように変わったのかを確認することができるようになり，児童一人一人に自己の成長の自覚を促すことができた。また，構図を考える段階から毎時間の作品の写真を並べて，学習の積み上げを実感することができた。

さらに，オクリンクで提出したシートを，学級で共有することで，毎時間の仲間同士の振り返りを読み合うことができた。自分だけでなく，仲間の作品のよさや成長に気付くことができ，そこから得たものを自分に生かすこともできた。ペアやグループで，前時と本時の作品を比較しているシートを見せ合い，指で示しながら「ここをこんなふうに塗ったら…。」「なるほど。」と交流することもできていた。

５　成果と課題

【研究内容（１）】

○造形的な見方･考え方を整理しまとめることによって，児童が意識的に働かせる見方・考え方が明確になった。

○単元構成表を作成することで，児童の意識の流れやそれに合った学習を仕組むことができ，児童が見方･考え方を意識的に働かせるための手立てを考えることができた。

○学校生活の中で児童が最も頑張ったことを題材とすることで，意欲的に学習に取り組むことができた。

○主題を表現し難い，構図のみの学習で，複数の作例を提示し比較することで、児童が主題に合ったものを意図的に選択できたことで，手が止まる児童がいなかった。

▲複数の作例を提示するときに，教師が「この構図はこんな気持ちを表現したくて…。」と語るのではなく，児童に「この構図からはどんな気持ちが伝わってくる？」と問うことによって，児童の中から出た言葉で学習を進めていくと，より強い課題意識をもち続けることができたと感じる。

【研究内容（２）】

○既習内容からつないだ導入で２つの作例提示をすることで，共通点や差異点から色彩のポイントとなる造形的な見方・考え方を，児童の言葉で引き出すことができた。

○児童から出た言葉でポイントをまとめることで，児童が主体となる学習ができた。

○活動中に児童に製作の意図を問い，児童が言葉にしたり改めて考えたりすることで，自分自身で思考を確認させることができた。

○振り返りシートを活用することで，児童が題材を通して学びの深まりを実感しながら，学習を進めることができた。

○タブレットを用いて前時の作品と本時の作品を横に並べて比較することによって，本時の活動で自分の作品がどのように変わったのかを確認することができるようになり，児童一人一人に自己の成長の自覚を促すことができた。

▲写真だけでは分からない細かい色の変化や筆のタッチの違いなどに気付かせるために，本時の作品は実物に触れながら振り返りや鑑賞ができるとよかった。

▲全体で課題を設定した後に，課題について，自分の事で考える時間を設けることで，自ら追求する態度を育てていく必要がある。

【おわりに】

４月に実施した図画工作科の学習についてのアンケートを１２月にもう一度実施した。「図工の授業では，課題の解決に向けて，「自分で」考え，「自分から」取り組むことができる。」と回答した児童は９６．６％だった。そして，「図工の授業では，「自分で」課題をつくることができる。」と回答した児童は８９．６％だった。このことから，児童は造形的な見方・考え方を，学習を通して身に付け活用することで，主体的で対話的な深い学びを実現することができたのではないかと感じる。また，タブレットを活用した振り返りを行うことで，主体的に学習に向かう態度を育てることができたと感じる。

今後は，今回の実践を通して明らかとなった課題について，研究実践を積み重ね，自ら理想とする「美しさ」を追求し続ける児童を育てるための指導・援助の在り方を探究し続けていきたい。

【参考文献】

・文部科学省　「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説図画工作編」